

## 福岡市内の炭鉱の歴史

(これは福岡県史、福岡市史、早良郡史、「調査・朝鮮人共生労働①炭鉱編」竹内康人、「大正期「早良炭田」における炭鉱業」福岡大学・永江眞夫、「サワライズの歴史」、「強制連行・強制労働」林えいだい、「異郷の炭鉱」竹富富巳男、「知られざる麻生外相の家系」週刊金曜日等を参考にまとめました。)

2015年10月 文責 — 石井吉弘

### (1) 初期の福岡市内の炭鉱

石炭は貝原益軒の「筑前国続風土記」の中にも「燃石」(もえいし)として登場します。西新と祖原(1805年)、田島と席田(1821年)、土井(1825年)、下月隈と平尾(1874年)で発見されました。

福岡県は福岡(筑前)・小倉(豊前)・三潁(筑後)の3県が合併して福岡県となりました。日本は鉄と石炭を両翼として近代化を進めました。福岡県の石炭産出は全国の32%を占めました(S32)。具島・麻生・安川が地場御三家でした。今では町の中にその痕跡はありませんが、明治から昭和にかけて福岡市内には8カ所の炭鉱が存在しました。中心は早良炭業の小戸と愛宕ですが、これとて福岡県全体から見れば僅か1~3%に過ぎません。他には鳥飼・西新・下月隈・東平尾・田島・西戸崎に在り、規模は中小炭鉱でした。

当初、三池でも労働者不足で囚人労働に頼りました。その後、朝鮮人の強制連行・強制労働が行なわれます。朝鮮では「出頭せよ」という特高の令状や、町や村から強制的に男女が連行されました。炭鉱の周辺には朝鮮人部落や被差別部落がありました。下記の表は、「週刊金曜日」に掲載された「知られざる麻生外相の家系」の中に掲載されたものです。

朝鮮人労働者数ベスト12位

順位	会社名	労働者数
1	三菱鉱業	13390
2	具島鉱業	12757
3	三井鉱業	10989
4	麻生鉱業	10623
5	三菱重工業	8085
6	古河鉱業	6413
7	熊谷組	4202
8	日本製鐵	4067
9	嘉徳鉱業	4057
10	西松組	3779
11	間組	3266
12	日立鉱業	2834

### ① 鳥飼の鳥飼小学校の所・・・豊国鉱業(株)

運搬は樋井川、七隈川→藤崎で北筑鉄道→今宿から船(当時の今宿は料理や・飲食店などで賑わった)しかし坑内火災・湧水・落盤の災害が頻発しました。とりわけガス爆発が頻繁に起こりました。そこで小鳥を連れて行きますが、小鳥が30秒で止まり木から落ちると、人間は30分で死ぬと言われます。採炭数は不明で当時は東抗と呼ばれていました。

鳥飼小学校はボタ山の跡地に出来た小学校で、下層はシャモット(石炭の燃えがら)です。

北筑鉄道はT5~S2年迄の12年間運行し、S3年に廃線。線路は約20km(今川橋~糸島・加布里)。

M27~T9迄、場所は不明ですが麻生も樋井川に炭鉱を所有していたようです。

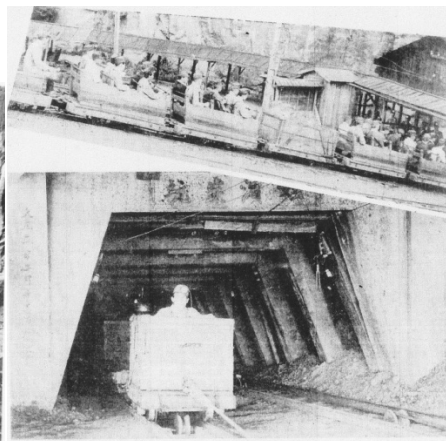
②西新・昭代の祖原公園の所・・・姪浜鉱業(株) (所有者の一人が右翼の頭山満) から福岡鉱業(株)へ所有権は変わりました。採炭数は M43・44・45・T2 年で合計 8 万 3 千トン。  
当時は西抗と呼ばれました。その後、T3 に豊国鉱業(株)と姪浜鉱業(株)を合併させ福岡鉱業(株)とし、経営権は大倉組→T6~山本唯三郎(船成金)→T10~鈴木商店と変わります。採炭の主力も小戸と豊浜に移ります。早良郡史では場所は不明ですが原村や壱岐村にも炭鉱があったようです。

③小戸(現在の公園付近)と愛宕(豊浜団地付近)の2カ所・・・福岡鉱業(株)から早良鉱業(株)へ福岡市内では最大の炭鉱で、M43~S3 年までの合計で 484 万トン。最盛期は T6~T12 の間は毎年 40 万~50 万トンの採炭数でした。ここからは栈橋を作り直接船にて運搬しました。  
採掘では排水に苦労した様です。石炭の地層はほぼ海拔下 50~250 メートルの所に、20 度でなだらかに傾斜したロッキも斜めに入抗しています。  
T3 年に姪浜鉱業(株)が起業し、T4 年に福岡炭鉱を買収し早良鉱業(株)となりました。  
労働者は T6~T12 の最盛期 4000 名程で、家族を合わせると 1 万人を遙かに超す炭鉱の町でした。  
S20 年、6 月の B-29 による町ぐるみ焼き尽くす焦土作戦で早良炭鉱も焼却。  
さらに同年の秋に暴風雨で水没し、炭鉱は一時操業を中止しました。  
S21 年に操業を再開し S37 年まで操業しました。  
S35 年、早良興産(株)が設立。  
S37 年、炭鉱は完全に閉山。  
S47 年、早良興産と早良鉱業が合併し、早良興業(株)が設立。  
H13 年、早良興業(株)がサワライズに社名変更、現在に至る。

姪浜の町は鎌倉時代には探題がある町として、江戸時代は宿場町、港町として栄え「姪浜千軒」と言われてきました。明治からは炭鉱の町としてもさらに賑わいを増しました。町は M22 年に自治制となり早良郡姪浜村でスタート。役場は現在の西鉄ストアの所に在りました。

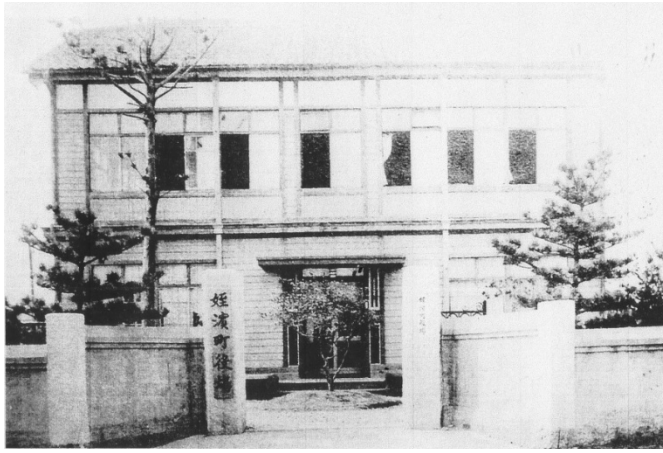


S30 年代愛宕本抗のボタ山と炭鉱住宅



早良鉱業トロッコの入抗・出抗風景

当時、早良郡は西新・姪浜・樋井川・原・田隈・入部・内野・金武・壱岐・残島(能古島)を含む広大な地域でした。早良病院も S25 年に炭鉱が建設した病院で現在の西区姪浜に在りますが、当時の早良の名前が付いています。M26 年に姪浜町となり、S8 年に福岡市に編入しました。上段と下段の写真はいずれも「姪浜とその周辺」という郷土写真集で、「姪友会」が発行したものの中にあります。



姪浜村役場

## (2) アジア太平洋戦争前後の福岡市内の炭鉱

- ①下月隈—S35年閉山
- ②東平尾—S29年閉山
- ③田島—S33年に閉山。ここには珍しく炭鉱住宅は無く、労働者はサラリーマンで自宅から出勤しました。
- ④西戸崎—S39年に閉山

S21からの石炭鉱業の推移（福岡市史より）

	炭鉱数	出炭トン	労働者数
S21	2	8万トン	1600人
S22	2	15万	2300
S23	4	20万	2600
S24	4	18万	2200
S25	4	18万	2000
S26	4	20万	2000
S27	4	20万	1900
S28	4	22万	1600
S29	3	19万	1100
S30	3	21万	1300
S31	4	23万	1500
S32	4	27万	1500
S33	4	25万	1400
S34	3	24万	1300
S35	2	25万	1000

## (3) 朝鮮人強制労働者に関して

- ①日本が朝鮮に侵略する中で、朝鮮の人たちに給料・休み・社宅などで好待遇を約束し、強引に船に乗せ博多港まで運んで来ました。その強制連行には警察までが一緒に参加し、まるで暴力団と警察がつるんだ強制連行です。筑豊全体で15万人を越える朝鮮人強制労働者がいました。1990年韓国大統領の要請で日本政府が調査をしたものの詳細な実態は今も不明です。

②その中でも麻生炭鉱は、「暴力と最悪の炭鉱」と言われています。一言で形容すれば暴力団が支配する炭鉱とも言え、社宅はまるで刑務所の様に塀で覆われ、逃げ出すと壮絶なリンチが待っています。多くの人たちがリンチで死亡していますが、全ては仕事中の事故で死んだことになっています。麻生炭鉱の1/3が朝鮮人で大規模な朝鮮労働者のストライキが3週間起こり、それが筑豊全体に広がり、全国からお米などの支援がありました。日本人との同一賃金を獲得しました。当時炭鉱では納屋制度ですが、これが実質的な暴力団制度です。暴力・恐喝・横領・賭博・婦女暴行が日常茶飯事に行われていました。

③早良炭鉱にどれほどの朝鮮人労働者が働いていたのか、竹内康人の「調査・朝鮮人強制労働、炭鉱編」によると、早良炭鉱の連行者数として下記の数が出ています。

(1939～1944年の数字が下記の福岡市史の中でも出てきます)

1939～1942	888人
1943	623
1939～1944	1689
1944	1530

次に福岡市史によると下記の内容が記録されています。早良炭鉱のS19年(1944)として、実に65%が逃げ出しています

移入者	1689人
逃走者	1096
不良送還者	10
その他帰鮮者	204
現在員数	458
死亡	9
発見再就労	88
既住労務者	98

愛宕山には、朝鮮人強制労働者の仏を祀った石仏が多数ありました。竹富富巳男の「異郷の炭鉱」の中に、福岡県特高課の俘虜分布表が有り、そこには早良炭業所として250人という記載があります。何年の記録かは不明です。尚この場合の「俘虜」(捕虜)は朝鮮人を除く、他国の戦争捕虜になると思われれます。国籍は不明です。

以上